

令和元年8月7日

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE) Q & A集

静岡県感染症発生動向調査委員会
薬剤耐性(AMR)対策部会長

静岡県内の病院で多数の入院患者にバンコマイシン耐性腸球菌(vancomycin-resistant enterococci: VRE)が伝播した事例が発生しました。県内より質問があがっており、簡単なQ & Aを作成いたしました。

1. VREとはどんな菌ですか？

人の腸には腸球菌という常在菌が存在しており、通常は病気の原因になることはほとんどありません。抗菌薬を使用すると菌に薬剤耐性ができることがあります。本来効果があるはずのバンコマイシンという薬剤が効かなくなった腸球菌をVRE(バンコマイシン耐性腸球菌)と言います。

2. VREの保菌と感染の違いについて教えてください

身体の中にVREが存在するだけで、どのような病気も起こしていない状態を保菌と言います。VREが原因となって発熱などの感染症状を起こしている状態を感染と言います。VREが見つかった方の90%以上は保菌であり、感染を起こす方は稀です。起こしやすい感染症は尿路感染症や胆管炎、血流感染症などがあります。

3. どうやって診断するのでしょうか？

多くの方は2にあるように自覚症状がありません。保菌者を診断する場合には便を培養し行います。

4. 感染対策はどうしたらよいのでしょうか？

VREをはじめとした耐性菌は医療従事者の手を介して広がります。手指衛生を中心とした標準予防策を行うことが有効です。

感染症を発症しやすい患者さんが多い施設(抗がん剤投与、手術などの侵襲的処置を行う施設)では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)と同様に接触予防策をとることをお勧めします。

5. 標準予防策とは何でしょう？

標準予防策とは、すべての施設で行っていただきたい予防策です。患者さんのケア前後の手指衛生を常に行うことに加え、体液を扱う際は手袋、くしゃみなどの分泌物が飛散する可能性があるときはマスク、体液が体に付着する場合にはエプロンを着用しましょう。手指衛生はアルコール製剤と石鹸+流水の2種類の方法がありますが、忙しい施設ではアルコール製剤が時間短縮につながります。

標準予防策をとることの利点として、今回のVREだけではなくすべての耐性菌やインフルエンザなど多くの感染症の広がりも同時に抑えることができます。常日頃から習慣化しておくことをお勧めします。

6. 接触予防策とは何でしょう？

接触予防策では、個室またはコホート隔離(多床室での集団隔離)が望ましいです。標準予防策に加え、手技の有無にかかわらず室内に入る際に手袋およびビニールエプロンを着用ください。

7. VRE を保菌している患者さんは退院・転院できないでしょうか？

医療従事者が標準予防策を行うことで広がりが抑えられる感染症です。VRE 陽性である旨を情報提供した上での転院は可能です。VRE 保菌のために患者さんに必要な治療やリハビリテーションが妨げられることのないよう、ご協力をお願いいたします。